

あ

あーそーぼ 学校から帰ると、直接友達の家に行つて「あーそーぼ」と誘いました。断る時には「あーとーで」と言います。「あーとーで、つてうまい断り方ね」と関西から家に泊まりに来ていた叔母に言われました。

東港区

挨拶 挨拶については厳しく注意されました。お客さんが来ていると、ランドセルを置いて来るよりも挨拶が先。立ったまま挨拶するのは行儀が悪いとされ、必ず正座をして「こんにちは」。親戚の家におじやまする時には、仏壇に手を合わせてから、家族に挨拶します。それが習慣になり、今も帰省すると真っ先にお仏壇に向かつて手を合わせています。風景・高萩市

アイヌ 少年は父の教え子で六年

生くらいでした。手放した犬に東京から一時間近くかけて会いに来ていたのです。ホームランという棒状のアイスを十本持つてきて、私に一本くれて、九本を犬に黙々とあげ続けました。自分は一本も食わずに。帰る時、犬をぎゅつと抱きしめると、犬も悟つていたのか、後を追うことも吠えることもありませんでした。小暮・船橋市
アイスキャンデー屋さん「箱は断熱材を詰めた二重構造」夏には、自転車の荷台に箱をくくりつけたアイスキャンデー屋さんが来ました。祖母が庭に出て、孫たちみんなに買つてくれます。イチゴ・オレンジ・レモン・ミルク、どれにしようか真剣に悩みます。越阪部・所沢市

アイスショー 小学二年生の時

アメリカから来た「ホリデー・オン・アイス」というショーを観ました。実演のショーを観るのは初めてで、その煌びやかさに感激しました。プログラムを何度も見ていたら、友達に「いいなあ。一生の宝物になるわね」と言われました。東港区

アイスポックス「クーラーボックス」氷屋さんから一貫とか、まとまった氷を買つてきてアイスポックスに入れ、そこに食料品を入れました。氷がとけて食料品が水びたしになる時もあり、夏の暑い時は長くはもちません。それでも重宝でした。吉田・横浜市
アイロン 母は、炭火アイロンとのしゴテを使い、電気アイロンが登場した当初は、小さな電気アイロン(ミゼットアイロン)と炭火アイ

アイロンを併用していました。昭和三十年代半ばに普通の大きさの電気アイロンを買つてからは、中学の制服に自分でアイロンをかけました。越阪部・所沢市

アイロン台 平らな布張りのアイ

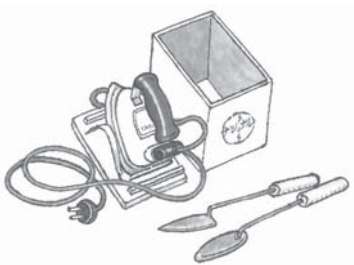
ロン台の他に、曲面用の饅頭と、袖が通せて肩などに当てられる細長い型のがあり、それに脚がついたのは「馬と呼びました。焦げた汚れ染みができると、上布を張り替えて使いました。越阪部・所沢市
青大将 赤ん坊が生まれたばかりの冬、天井裏でネズミが騒ぎ始めました。ミルクの匂いのする赤ん坊がcaじられた話もあり、おちおち眠れませんか。やがて静かになりました。春先、雨戸をあけると軒先からアオダイショウが顔を出しました。蛇は家を守ってくれると

か、あの蛇はどこかで生き抜いているでしょうか。越阪部・所沢市
青焼き 図面の複写は青焼きです。青焼き用の紙感光紙で長く置いておくとか感光して使えなくならぬに、トレーシングペーパーに鉛筆で書いた図面を載せてロールに送り込みます。少しずらしておくのがコツ。少し青みを帯びた白い紙に鉛筆の線が青く複写されて出てきます。薬液を使っているの

で、たくさん枚数を焼くと頭が痛くなりました。楡垣・呉市

赤いごはん わが家では毎月一日と十五日に「小豆ごはん」を食べました。お赤飯ではなく、前の晩からふやかしておいた小豆を普通の米と一緒に炊く、小豆の炊き込みごはんです。ある時、近所や友達の家にはそんな習慣はないと

知り、「どうしてうちは赤いごはんを食べるの?」と父に聞くと「虫下しの効果があるんだ!」。胃腸が弱い父の自衛策だったのかもしれません。浜田・神奈川県
赤い鼻緒 小学校低学年の頃は、学校へ赤い下駄をはいて行きました。教室では赤い鼻緒の草履にはき替えました。新見・前橋市



アイロンとのしゴテ

え えつきようにゆうがく——えびすさま

京を発つて、乗り継ぎながら九州の鳥栖に着いたのは翌日。顔は汗と埃でどろどろ。蒸気機関車の時代は、煤もついて真っ黒になったことでしょう。ホームには乗客が顔を洗った人研ぎ流しが残っていました。古びてシミがにじんだ鏡の前で、洗顔し、歯磨きしてさっぱりしました。越後部・所沢市

越境入学

小学校は生徒の三分の一が他の地域から通ってくる学校でした。平日は家に帰って習い事、土曜日は友達の家でお昼をご馳走になり、一緒に遊んで電車を乗り継いで帰る生活でした。今ほど交通網が発達していなくて、遅延する事が多く、遅刻しても「混んでました」の説明で済みました。通学の大変さも当時は当たり前に受け入れていました。地元の友達を

絵具箱

中学生になったお祝いと木製の立派な絵具箱と色鉛筆の豪華なセットが送られてきました。誰がくれたのか何度聞いても母が教えてくれないので、ひよっとすると私の秘密の生家から？なんて想像しました。父にはいつも「お前は橋の下から拾ってきた」と

恵比寿講

恵比寿講の日には尾頭付きとぬつべ汁とお赤飯。神棚から恵比寿様、大黒様をテーブルの上におろし、鯛や果物を供え、算盤や財布も並べ、今年の感謝と来年の商売繁盛を願いました。子供達も小さなお財布を供え、「おこづかいがたまりますように」と手合わせしました。中林・前橋市

恵比寿様

十一月半ば過ぎ、恵比寿講が近づくと、父は神棚から

絵日記

夕ごはんを食べたあと、公民館へ映画を観に行きました。覚えているのは、勇敢な鯨捕りを称える捕鯨船の映画。私も弟も夏休みだったので、絵日記に大きく描きました。弟の絵は鉾で鯨を突き刺す場面で、派手に血が飛び散っていました。鯨肉を食べるたびに思い出します。吉田・横浜市

黒様と恵比寿様をおろし、一年の埃を払い、お客さんからよく見える位置に飾ります。そして心ばかりのお礼を込めて、お客さんにかかんを配りました。岸・平塚市

衣紋掛け「ハンガーのこと」

今のように肩のカーブがついていなくて、ほぼまつすぐな木に金具がついているような作りです。女性は撫で肩の方がいい(着物が似合う)とされていたので、いかり肩の人に「衣紋掛け」とあだ名をつけて、着物が似合わなくて残念ね、と思っていました。増垣・呉市

襟掛け餅

丸めた餅を数え年と同じ数だけ藤蔓に通し、首からさげる習わしがありました。藤は丈夫で長く伸びることから、子供の無病息災を願うものだそうです。お餅が重かったこと、セーターやは

え えもんかけ——えんがわ

んてん(半纏)にお餅の粉がついて真っ白になったことを覚えていません。風祭・高萩市

エレキギター

二階の六畳の和室(私の部屋)は、放課後の新聞同好会のたまり場でした。男の子はエレキギターをもってきて弾くようになりました。もちろん、防音装置などありません。ついに、母に怒られて、ベランダ伝いに一斉にかけおりていったのが最後になりました。田中西宮市

エレベーター

修学旅行前に「東京に行ったらエレベーターに乗ることがあるが、靴は脱がないように。二度と靴と会えなくなる！」と先生に言われました。日本橋三越デパートに行つて、乗る時には緊張しました。竹岡・天童市

縁側

縁側は近所の人立ち寄り



縁側